

<h1>そだて</h1> <p>第280号</p>	小千谷市 青少年育成センター	〒947-0031 小千谷市土川1丁目5番53号 Tel 0258-82-6750 Fax 0258-82-6750 相談専用電話 0258-82-6771 e-mail: s-center@city.ojiya.niigata.jp URL http://www.city.ojiya.niigata.jp/
---------------------------	-------------------	---

「好きこそ物の上手なれ2」

青少年育成センター所長 菅原 誠廣

感染症対策のため、不要不急の外出を自粛して、少しばかりの書籍を読み直す時間がとれました。「若きエンジニアへの手紙」(菊池 誠著)の中に興味深い内容が書かれていたので紹介します。

1950年頃、ゲルマニウムやシリコンの結晶を用いてトランジスタの研究するためには、大変な高純度の材料を必要としていました。

その頃、アメリカのベル研究所にプファンという人がいました。彼は、ゾーン法という画期的な方法を考案して、純度を格段に上げることに成功しました。1970年頃のことです。このプファンが日本にやってきて、菊池さんの研究所を訪れました。

研究所の見学をして、一緒に昼食を食べている時、菊池さんは、以前からプファンの業績を知っていたので、いろいろ聞いておこうと思い、「ドクター・プファン」と呼びかけました。その時、彼は即座に手を出して菊池さんを制するようにしながら、「ちょっと待って。私はドクターではありません」「御存知ないでしょうけれど、私はもともとベル研究所のメールボーイだったんです」

このプファン少年、いろいろと細工をする手作業が何より好きだったのです。それで、毎日出入りしている研究室で、何か面白いものがあると、「ねえ、ちょっとそれ見せて下さい」とお願いするのが常でした。そのうちに、彼を可愛がる人も出てきて、そこで、結晶の純度を上げるために、溶かしたり固めたりする仕事について教わったのです。

そして、とうとうプファンは、ゾーン精製法という実にうまい方法を思いついたのです。

トランジスタの発明は1947年、ゾーン精製法の発明は1952年のことでした。そして、ICの特許取得は1959年のことです。今の私たちの生活を支えているスマートフォンやコンピュータに使われている技術がほんの10年間(それに比べ今の技術革新の期間ははるかに短いのですが)で生み出されたのでした。

さて、ここでも私が感心することは、プファンが何よりも結晶いじりが好きで、チャンスさえあれば、自分の手で触れ、何かをやってみたい、とっていたことです。熱心さ、好奇心が、いつも彼にあふれていた、ということです。

まさに、好きこそ物の上手なれ、ということです。しかし、私たち大人の心に「そんなことはできるはずがない」「そんなことは何の役に立つのか」という気持ちがないでしょうか。やってみなければ分からないことがたくさんあります。大きく伸びる芽を摘み取ってはいないでしょうか。私たちは、若者の支援ができる大人になりたいものです。